

長崎県農林技術開発センター

茶業研究室

*Nagasaki Prefectural Government
Agricultural and Forestry Technical Development Center
Tea Laboratory*

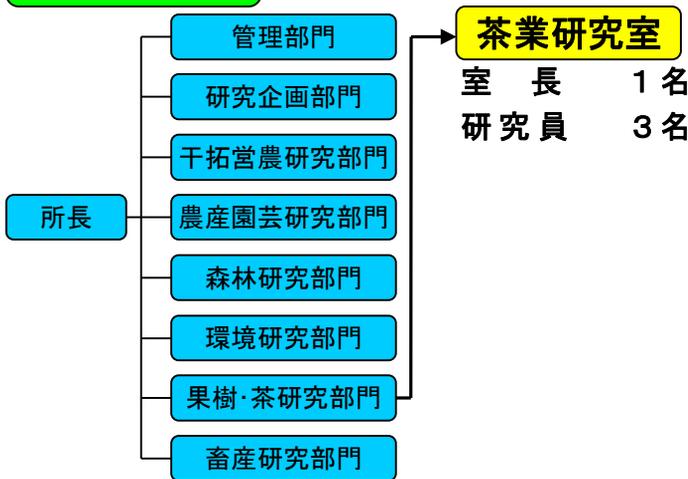


〒 859-3801
長崎県東彼杵郡東彼杵町中尾郷1414
TEL (0957) - 46 - 0033
FAX (0957) - 46 - 0875

沿革

- 昭和 4年(1929) 長崎県立農事試験場茶業部設置(東彼杵郡東彼杵村)
- 昭和 5年(1930) 長崎県立農事試験場附属茶業指導所と改称
- 昭和10年(1935) 輸出茶再生事業実施
- 昭和15年(1940) 長崎県彼杵茶業指導所と改称
- 昭和24年(1949) 長崎県経済部茶業所と改称
- 昭和31年(1956) 長崎県茶業指導所と改称
- 昭和36年(1961) 長崎県総合農林センター彼杵茶業センターと改称
- 昭和46年(1971) 長崎県総合農林試験場東彼杵茶業支場と改称
- 昭和50年(1975) 現在地へ移転整備(東彼杵町三根郷より中尾郷へ移転)
- 昭和56年(1981) 長崎県総合農林試験場 彼杵茶業支場と改称
- 昭和61年(1986) 長崎県総合農林試験場 東彼杵茶業支場と改称
- 平成21年(2009) 長崎県農林技術開発センター 茶業研究室と改称

組織



位置と交通

JR大村線彼杵駅から、佐賀県嬉野町へ向かう国道34号線より、東彼杵町菅無田郷を経て、太ノ原地区町道を進む約8Kmの海拔400mの位置にある。(東彼杵町営バスセンターより、大野原高原線、中山入口バス停下車徒歩3分)



敷地・施設

(1) 用地

総面積	79,970㎡
うち試験圃場	49,500㎡
建物用地	12,364㎡
道路その他	18,106㎡

(2) 建物

本館(事務室・実験室)	305㎡
製茶試験室	662㎡
農機具及び肥料倉庫	162㎡
農業機械格納庫	305㎡
ガラス室	103㎡
堆肥舎	128㎡



試験研究の概要

『新ながさき農林業・農山村活性化計画』および『長崎県茶業振興計画』に基づき、地域の特性を生かした産地基盤の強化と生産農家の経営安定、さらに消費者ニーズに対応した県産茶のブランド化を図るため、技術開発に取り組んでいます。

茶樹優良品種の選定

高品質茶の生産安定と経営規模拡大を図るため、本県に適した品種選定と優良な穂木を提供する。



優良系統の地域適応性検定試験圃場

新製茶技術の確立

新製茶ハイブリッドラインを活用して、緑茶の低コスト、高品質生産技術を確立する。



新製茶ラインによる製造実証試験

原料用茶葉栽培技術開発

ドリンク原料茶・抹茶等食品加工用原料茶葉の安定供給のための栽培技術を開発する。



てん茶工場(令和元年稼働開始)



これまで開発した機能性のある製品

新製品の開発

二、三番茶を利用して機能性のある新たな茶製品を開発する。

長崎県の茶

長崎と茶の出会い、日本で最初の茶書『喫茶養生記』の著者として有名な栄西禅師によって、1191年中国より持ち帰った茶の種子を平戸市の千光寺に播き、製茶や喫茶を伝えたことが始まりで、本県は日本茶業の発祥の地である。

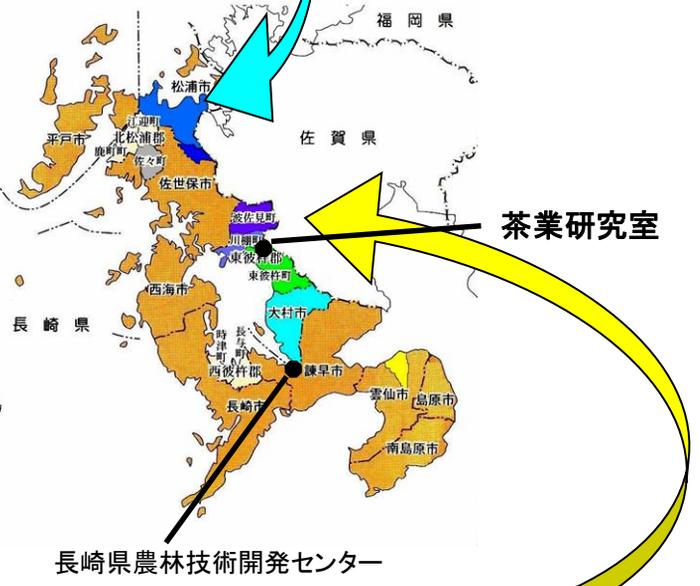
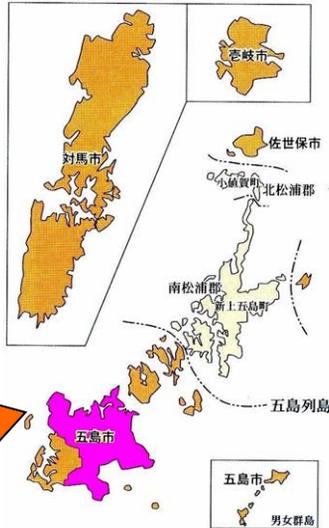
長崎県の茶は、平成27年現在、栽培面積全国11位、荒茶生産量全国11位の規模である。県内の主な産地は、東彼杵町、佐世保市、五島市、波佐見町で、他に松浦市、雲仙市、佐々町等がある。特に五島市においては、平成10年より、西海市では平成19年より茶の栽培を開始し、産地化に取り組んでいる。

	栽培面積(ha)
長崎県合計	750.0
東彼杵町	392.0
佐世保市	95.4
五島市	74.1
波佐見町	42.4
松浦市	19.0
西海市	19.6
雲仙市	15.7
佐々町	12.2
川棚町	7.3
大村市	2.3
島原市	3.0

※平成30年産 県農産園芸課調べ



県北地域茶産地



五島地域茶産地



県央地域茶産地